李　恩子教授の御退職によせて

李恩子先生は、国際学部創設以来、英語話者へのキリスト教教育などを担ってこられました。英語話者にとっての必修科目を担当なさいましたので、先生は実質的には英語話者留学生のアドバイザーでした。もちろんアジアからの日本語話者留学生や、さらには日本人ゼミ生からも広く慕われていました。また、海外の研究者を招聘教員や本学部の国際学フォーラム講演会の登壇者として招くことにも積極的で、新しい学部に国際学部らしさを醸成することにも貢献されました。

ご専門の哲学・倫理学ではジェンダー、エステニシティ、植民地主義をテーマに優れた研究業績を残されています。また、ミクロネシア（旧南洋群島）の女性を対象として調査研究で 2 件の科学研究費に採択されました。

最近では（本学部のツー先生と共著で）『帝国の時代とその後』を刊行されています。この本では、帝国がもたらした結果としての「混血」「食」「性」「移動」について、帝国をめぐる記憶と経験を客観的に考察、検証しています。一見重たいテーマですが、著者たちの経験も踏まえて学生向けに読みやすく書かれています。

大学からの出版助成に採択された単著である『日常からみる周縁性：ジェンダー、エスニシティ、セクシャリティ』は、インターセクショナリティ（交差性）の立ち位置から日本社会の過去、現在を社会学的に鋭く考察しています。日本とアメリカの生活経験からジェンダー、エスニシティ、セクシュアリティについての課題を「日常」における関係性の中で読み解こうと、新しい視座で問題提起した力作です。

さらに、ツー先生が主宰して 2022 年 10 月に設立された特定プロジェクト研究センター「戦間期日本社会研究センター」にも参加されます（定年退職後も客員研究員となれらます）。

李先生の研究の根底には、すべての人が平等にそしてそれぞれの人権が守られる社会に向けての普遍的価値の追究があります。先生は平和や社会正義についての思いが熱く、学部が小野寺防衛大臣の講演会を企画した時、「欧米のみならずアジアからの留学生も多い国際学部で、よりによって（真珠湾攻撃の）12 月 8 日に防衛大臣を招くのはいかがなものか」と教授会で発言されていたのが印象に残ります。

李先生、研究者に定年はありませんので、ますますのご活躍を祈念しています。

2023 年 3 月吉日

国際学部長　宮田由紀夫